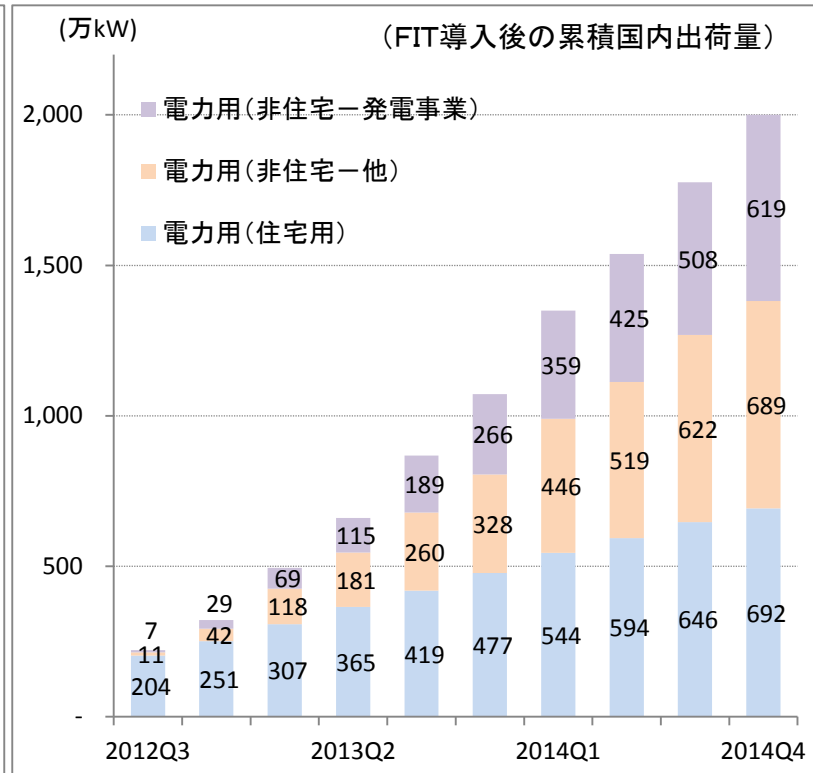
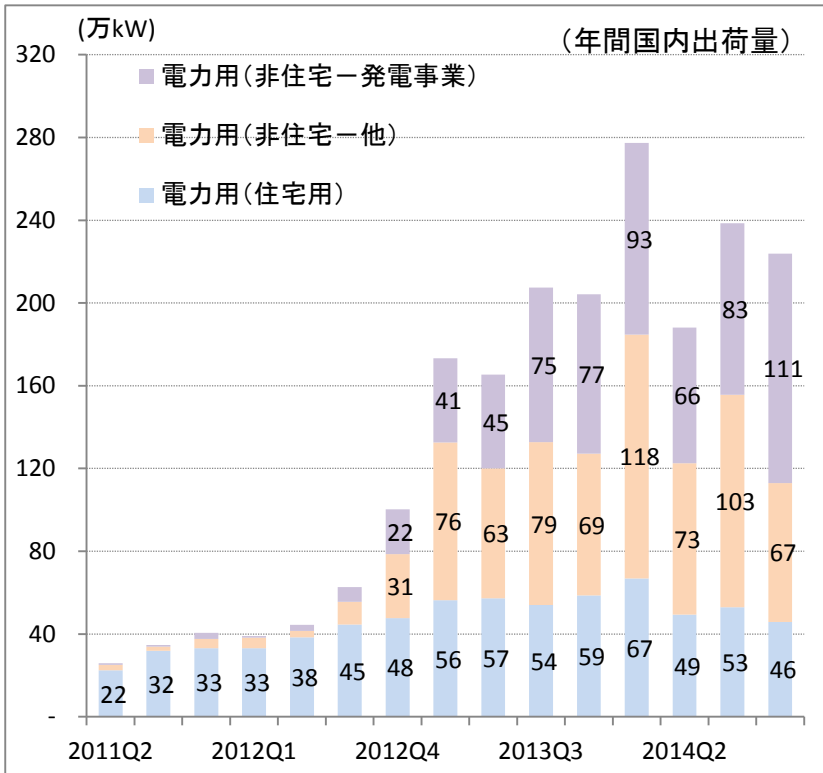


野村委員提出資料

FIT導入後のPV需要拡大

- FIT導入(2012Q3)以降、非住宅用の国内出荷が急拡大。2014年末までに累積で2000万kW。
- 再エネの導入量は、2011年度末の2000万kWから2014年10月時点で3470万kW(認定容量では7200万kW)。FIT賦課金総額は1900億円(2012年度)から、6500億円(2014年度)へ拡大。(認定容量ベースでは、2.7兆円まで拡大する試算)(経産省資料)
- ⇒①国内生産者の育成に寄与したのか?、②PV価格の低下に寄与したのか?

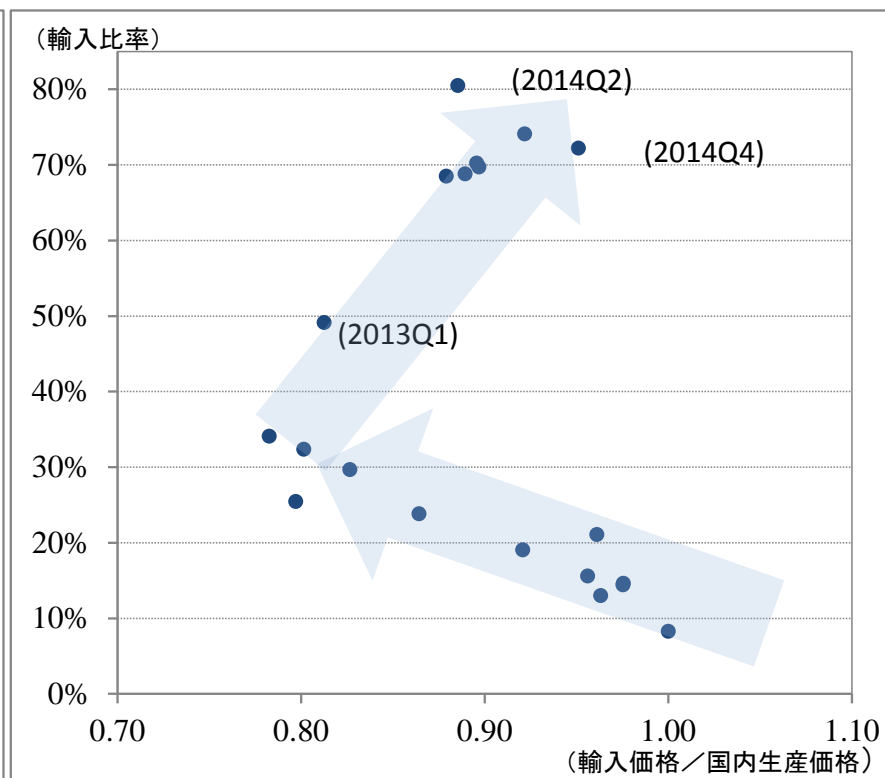
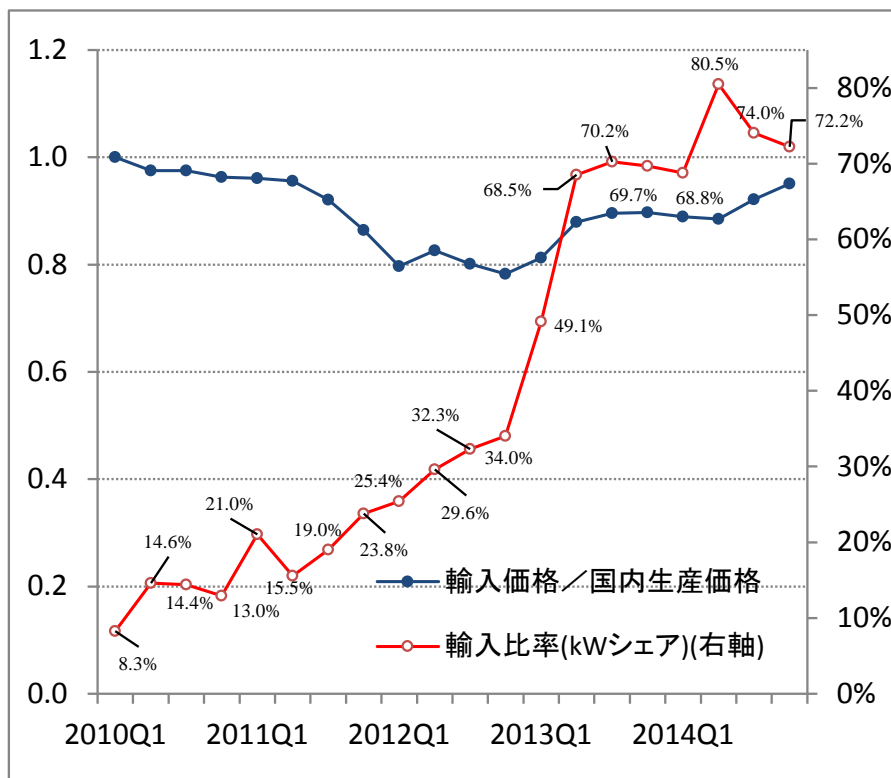


(期間)2011Q2-2014Q4。

(出典)JPEA太陽光発電協会「日本における太陽電池出荷統計」モジュールの用途別国内出荷量より、野村作成(2015年2月)。

FIT導入とPV輸入依存度の急上昇

- FIT導入後、PVの輸入比率は2013Q2では70%ほどへ急上昇。2014Q2では80%超え。現在でもおおむね70-80%は輸入財。国産PVでもシリコンなどの海外調達によって、PVの直接間接な輸入依存度は9割近い。
- 右図に見るように、FIT導入期が大きな転換点。以前は輸入価格が相対的に安くなる中で15-30%ほどへの緩やかな輸入比率の拡大が継続していたが、円安により輸入価格が相対的に高くなってFIT導入後には急速な輸入拡大。

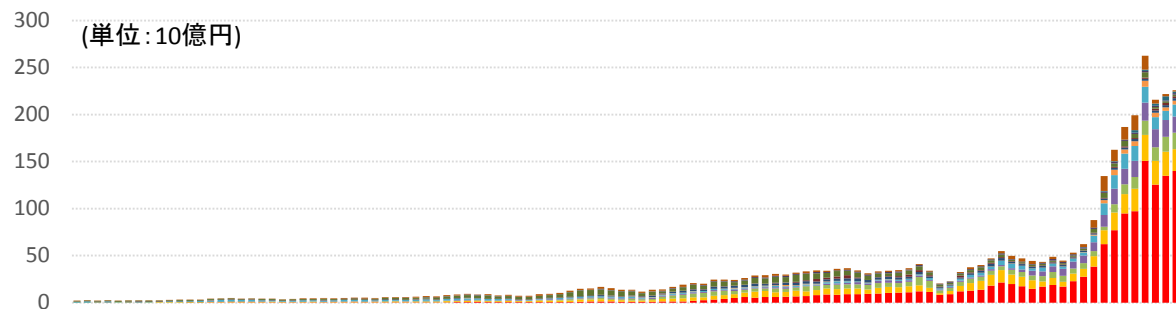
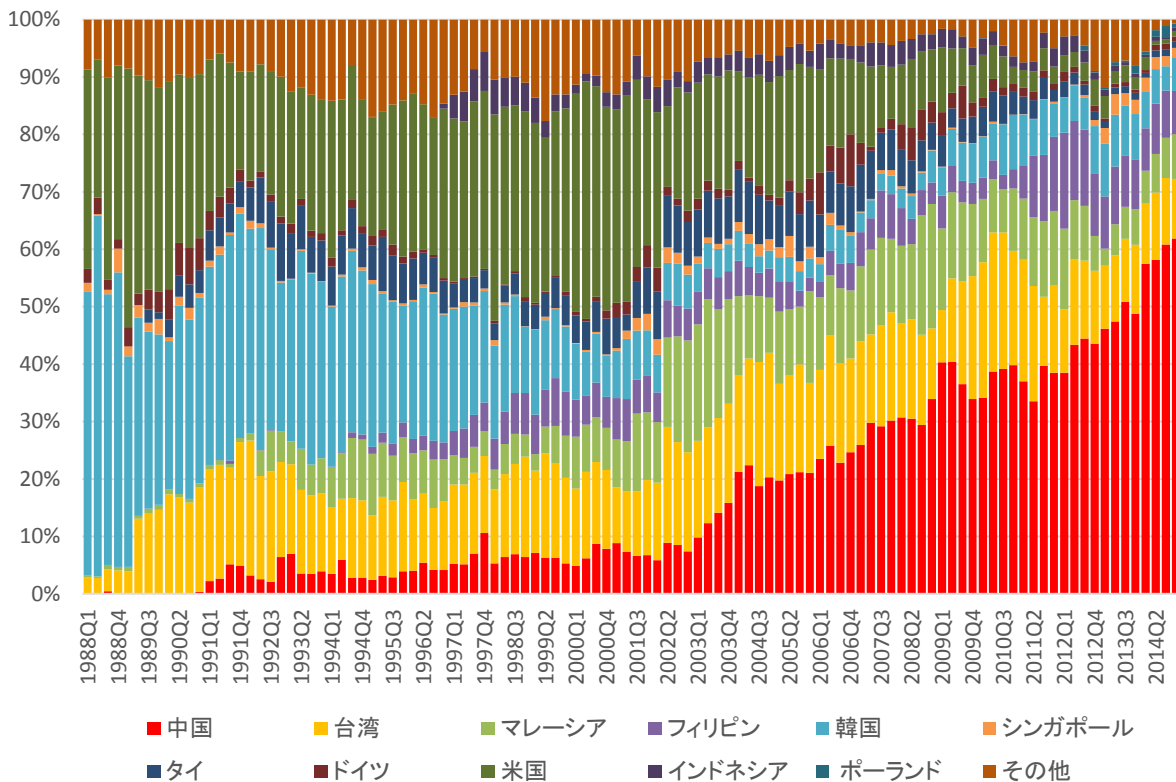


(期間) 2010Q1-2014Q4.

(出典) 野村・吉岡・大澤 (2013) 「太陽電池の輸入シェア弾性の測定と電力価格上昇によるシミュレーション」において、概念調整した各種データから算定。2012Q4から2014Q4まで、最新のデータで野村延長 (2015年2月)。

日本の太陽電池モジュールの輸入相手国別シェア

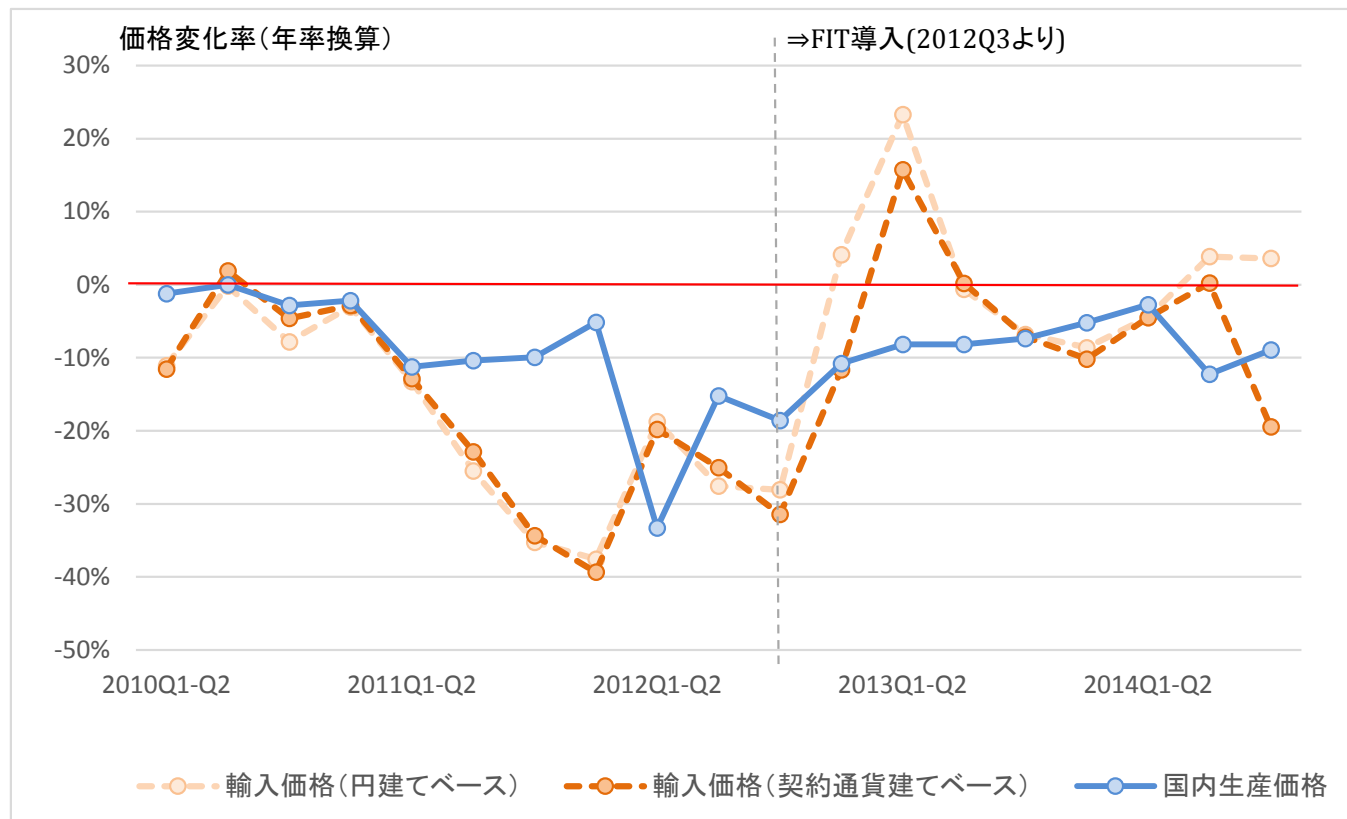
▶2014年第4四半期では、中国、台湾、マレーシア、フィリピンからの輸入で88%。



(出典)野村・吉岡・大澤(2013)より、野村更新(2015年2月)。日本の貿易統計より(財は「光電池(モジュール又はパネルにしてあるかないかを問わない。)」(HSコード:854140090)であり、本来の太陽電池モジュールよりも広いカバレッジであることに留意されたい)。

FIT導入とPV価格変化

- FIT導入(2012年Q3)以降、価格下落率は加速するのではなく鈍化し、2013Q1からQ2などではむしろ上昇。こうした輸入価格上昇は、円安による効果ではなく、契約通貨建てベースでもむしろ上昇。
- 国内生産価格においても、価格下落率は2011-12年と変わらないか、むしろ鈍化。習熟効果は見出されない。



(期間) 2010Q1-2014Q4.

(出典) 日本銀行国内企業物価指数、輸入物価指数より算定。年率換算。野村作成(2015年2月)。